

## “大谷効果”でブーム再来へ 逆風でも人気は不変

都軟式野球連盟評議員 菊池光彦氏

「公益財団法人 東京都軟式野球連盟」評議員の菊池光彦さんは、同連盟の理事や審判技術指導員を務めるなど、半世紀以上にわたりアマチュア野球の発展に尽力してきました。現在も還暦野球チームの監督として活動する菊池さんに、野球への熱い思いや来年開催される「ジャパンメディカルリーグ軟式野球大会」への期待を聞きました。



菊池光彦

1943年、岩手県出身。70年に全日本軟式野球連盟の審判員となり、88年から2005年まで東京都軟式野球連盟審判技術指導員を務めたほか、同連盟理事、千代田区軟式野球連盟審判部長などを歴任。現在は都軟式野球連盟評議員のかたわら、還暦野球チーム・千代田レジェンズの代表兼監督を務める。

——娯楽の多様化などを背景に、子供たちの野球離れが指摘されています。

◆確かに、少子化の影響もあり、高校野球のチーム数は減少気味です。サッカーなど他競技に流れている傾向もあるでしょう。しかし、心配はしていません。私と同郷の大谷翔平選手(エンゼルス)の活躍に刺激を受けて子供たちにも再び野球ブームが訪れるはずです。

——競技人口はそれほど変わらないと？

◆8月に女子高校野球の決勝が初めて甲子園球場で行われました。女子野球もこれから盛り上がっていくでしょう。高齢者に目を移しても、70歳代や80歳代のチームのリーグ戦もあります。健康増進につながるばかりか、仲間をつくることで認知症予防にもなります。

——ズバリ、野球の魅力は何でしょうか？

◆チームプレーの野球に親しんでいると、チーム内での自分の役割や共同責任の意味、力を合わせて一つの目標に向かう大切さなどが分かります。高校野球で言えば目標は甲子園であっても、目的は「人間形成」なんです。

——「ジャパンメディカルリーグ軟式野球大会」にエールをお願いします。

◆延長四十五回の最長時間試合として知られる1983年の天皇賜杯全日本軟式野球大会で優勝したライト工業(東京都)の決勝戦の相手が宮崎県の田中病院であったように、病院のチームには強豪が数多くあります。同じ仲間として応援していますし、野球界を盛り上げてほしいです。